

CSN創立10周年記念セミナー

リタイア後の 社会貢献としてのNPO活動

NPO法人シビルサポートネットワーク
事務局長 高橋 肇

特定非営利活動法人

シビルサポートネットワーク(CSN)



CSNは、都市・環境分野出身のシニア技術者を中心とした専門家集団です。主に環境問題、防災問題や社会資本の維持更新等について、研究活動や技術支援事業をおこなっています。

法人認証日

2004年11月

事務所

埼玉県吉川市

代表者

代表理事 辻田 満

会員数

32名(内、土木系エンジニアは80%)

取組分野

防災関連、環境関連、維持更新関連、地域連携

保有資格

工学博士 6名 技術士 14名 一級建築士 2名

バイオマス活用アドバイザー4名

NPO活動の原点

「やりたい人が、やりたいことを、やりたい方法で取り組む」
そんな当たり前のことを、やりやすくするのがNPO制度である。

- 組織にとどまらない社会との関与の幅が広がる。
- 所属機関にとらわれない自発的な行動が生まれる。
- 挑戦に適した形態になっている。
- 意思決定がスピーディに可能となる。
- 大学や学会との連携が可能である。
- 組織を超えて試行的に取り組むことが可能である。

事業型NPOとして活動

■ NPOの種類

1	〈慈善型〉 NPO	チャリティー活動	福祉、貧困、人権等々
2	〈監視・批判型〉 NPO	政府・企業への直接行動	政府・企業の行動を監視・批判する NPO/NGO
3	〈事業型〉 NPO	社会的サービス、 情報提供など	今日的话题の社会サービスや情報提供を事業としておこなう

事業型NPOとして活動

慈善型NPO	事業型NPO
<ul style="list-style-type: none"> ・利他主義 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事業 ・組織化、法人化 <ul style="list-style-type: none"> → 社会的事業を、組織化する。 契約する場合は法人格が必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア・グループ ・アマチュアリズム 	<ul style="list-style-type: none"> ・プロのスタッフ <ul style="list-style-type: none"> → 経営はプロのスタッフがおこなう。 → 事業そのものをプロの目でおこなう。
<ul style="list-style-type: none"> ・独立性 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業、政府とのコラボレーション <ul style="list-style-type: none"> → 必要に応じて、企業と積極的にコラボレーションする。 政府と、協力関係を保つ。

一般的なNPOのイメージ

ソーシャル・ビジネスとしての取組み

設立当初から事業型NPOとして活動

主たる活動資金は
事業収益を当てる

社会性

防災・環境・維持更新
などの社会的課題に
取り組む

事業性

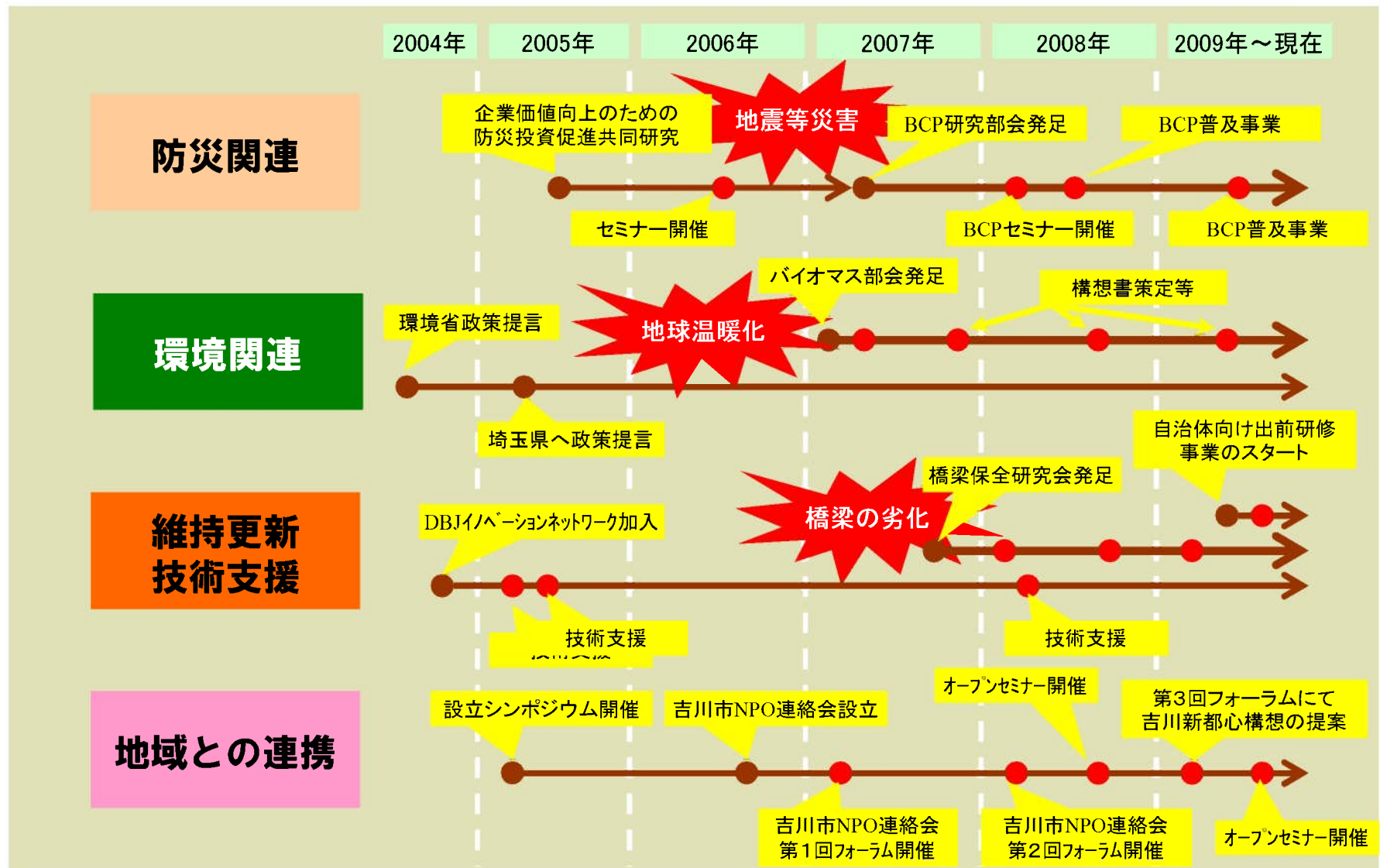
革新性

従来の市場の対応を
超える領域への
取組み(社会変化の実現)

CSNの4つのミッション

1. 技術者の流動性の向上支援
2. 行政との連携
3. 社学連携
4. 技術・情報の流動性の向上支援

10年間、こんなことをやってきました(主な事業)



事業継続計画(BCP)普及事業

地震等の災害時に事業の継続を円滑に行うために中小企業向けのBCPセミナーや作成指導講座を実施します



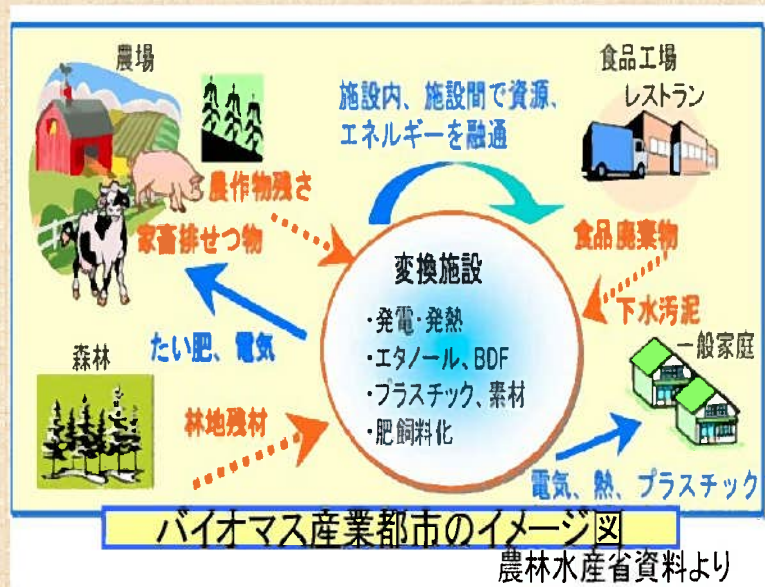
東埼玉テクノポリス協同組合
平成20年6月～22年3月延べ10社



協同組合熊谷流通センター
平成22年1月～9月 4社

事業継続計画策定支援活動

バイオスタウン構想の推進



地球温暖化の防止や地域の活性化のためにバイオマス(再生可能なエネルギーや製品)利用を推進するために、自治体のバイオスタウン構想や事業化計画をお手伝いします

太田市バイオスタウン事業化計画策定
南房総市バイオスタウン構想書策定
南魚沼市バイオスタウン構想書策定
笛吹市バイオスタウン事業化計画策定
南房総市栽培指針策定業務

バイオスタウン事業化計画等支援活動

市町村の道路橋長寿命化促進事業

平成19年度国土交通省は、橋の耐用年数を予防的修繕で100年まで延ばす「**長寿命化修繕計画策定事業費補助制度**」を創設しました。これは橋の寿命といわれている建設から50年を経過するものが、平成30年には全体の約半数に達しその多くで架け替えが必要となる見通しとなり、その費用の縮減を図るためのものです。

制度概要と当NPOの取組み

①点検要領書の作成およびチェック

②修繕要領書の作成およびチェック

③修繕見積書の作成およびチェック

④長寿命化修繕計画の作成および学識経験者の派遣

⑤ライフサイクルコストによる検討 および実施対策の選定

⑥新設(架け替え)橋梁の設計・施工計画および見積書の作成

地方自治体向けの《出前研修》

市町村が抱える技術的な課題へ、こちらから出向き、研修・支援いたします。
関東圏内で移動に2時間以内のところに無償で行う支援活動です。詳細は、HPを参照してください。



Y市職員 BCP 研修
平成 21 年 12 月

大学との共同研究(杜学連携)

事業内容	<p>武蔵工業大学総合研究所、(株)篠塚研究所と建設コンサルタント数社の共同研究組織を当NP0をプラットフォームとして組織し金融経済学と工学技術を統合した防災投資の評価技術を開発した。</p> <ul style="list-style-type: none">①. 2005年4月～2006年12月「防災投資促進技術の共同研究」②. 2006年8月「地震災害の財務影響分析」セミナー③. 2007年4月～2008年2月「BCP研究会」
------	--

「地震災害の財務影響分析」セミナー 風景



DBJイノベーションネットワーク事業

事業内容	日本政策投資銀行（DBJ）は技術の事業化のアドバイザーとして専門家をネットワークに登録、特に同業他社や業界にはアドバイスを求めずらい案件に対しても中立・公平な専門家集団としてのNPOはアドバイザーとして適していると判断。今までに4つの調査案件の委託を受けてきた。
------	---

行政への提言事業

事業内容	①. 2004年11月 環境省;環境政策提言「最終処分場の健全度診断」 ②. 2008年 2月 平成19年度埼玉県NPO活動促進助成事業提案 ③. 2009年 2月 吉川市新都心構想提案 ④. 2011年 6月 吉川市の未来を切り拓く農業提案
------	--

リタイア後のNPO活動

(わたしの経験から)

リタイアして考えること

つぎの人生を
どうすべきか？

- ・ 定年後をどう生きるか
- ・ 第二の人生を、
いかに自分らしく生きていくか

自分を見つめる → 自分とは何か？を知る

これがまた、
むずかしい！

人生後半期の進路選択

自分を認めてくれるところ

居心地のいいところ

居場所探し

やりがいのあるところ

シビルサポートネットワーク



NPOは、期待に応えてくれたか？
10年をふりかえる

堀田 力氏の「定年後社会貢献の心得」
4つのポイントを視点として

文藝春秋2004年7月号

「報酬は達成感—定年後社会貢献の心得」

ポイント① どんな活動を選ぶか

堀田氏	わたし
<ul style="list-style-type: none">・「何をしていてもよい自由が認められた貴重な最終段階の時期だから、自分が何をして生きていきたい人間なのか、突き詰めて考えろ」・「自分の思春期の夢を思い起こせ、そこに自分の原点があるからだ。夢を追って方向を決めろ」	<ul style="list-style-type: none">・友人から乞われて有料老人ホームの運営に携わる。・CSNも、辻田代表に乞われて、なりゆきで参加。・前向きな意思なし。・「人から乞われて」とは、「他人様が、わたしのもつ何かを認めてくださった」。・自分自身がわからなくても、意外にもひとが見つめていて、やりたい道に導き入れてくれたと考えている。

ポイント② 楽しくやるのに何が必要か

堀田氏	わたし
<ul style="list-style-type: none">• 生きがい・満足感・達成感 → 成果を人が認め、感謝される喜び• 自発性・積極性・創造性 → 自ら考え、実行して成功した時の充実感• 仲間や相手の人と分かち合う共感	<ul style="list-style-type: none">• NPO活動では、人と分かち合う共感に喜びを感じている。

ポイント③ 企業活動とどう違うか

堀田氏	わたし
<ul style="list-style-type: none">• 目的• 風土• 合意形成• リーダーシップ• 肩書• 市民感覚• 生活感覚	<ul style="list-style-type: none">• 企業活動では、束縛にさんざん苦しめられた。• NPOでは、これから解放された自由感がなによりも楽しい。• 正直にいうと、わたしがNPO活動をつづけていられるのは、社会貢献もすることながら、ストレスなしに仕事ができるからかもしれない。

ポイント④ メリットは何か

堀田氏	わたし
<ul style="list-style-type: none">• 社会的意義。• 本人の人生に張り合いがでてくる。• 精神がいきいきしてくるから少々の病気をはねとばす。• こころだけでなく身体も若返る。• 会話が魅力的になり、いろいろ友だちができる。• 高齢者と若者が対等の友だちになる。	<ul style="list-style-type: none">• まったく、同感！

メリットは何か

堀田氏	わたし
<ul style="list-style-type: none">• いい思い出につつまれて、幸せに天国に行ける（人生、最後でその価値が決まる）。• 家族関係がよくなる<ul style="list-style-type: none">◇ボランティア活動により、夫婦間の話題が増え会話が弾む。◇子ども、親が元気に社会のために活動していると安心、活動内容も共感できる、親に誇りがもてる。	<ul style="list-style-type: none">• まったく、同感！

これからの10年 (1)

- 意外、団塊の世代は参入せず
・・・人材難に悩みそう！
- CSNを含む土木系NPOに共通する問題点
 - ・ メンバーの高齢化
 - ・ あとにつづく者が少ない

これからの10年 (2)

- CSN設立の動機のひとつ
→ 2007年問題に対応すること。
- 団塊の世代は、ことし65～67歳。
- その世代の参加者は、ほとんど無かった。
- この10年、後輩たちがNPOを立ち上げたというはなしも、ほとんど聞かない。

これからの10年 (3)



社会貢献に活かすステージ

- 予想が、大きくはずれたといっているかもしれない。

堀田さんも心配している

- 団塊の世代は常に競争にさらされた頑張り屋である。
その頑張り屋さんたちが、NPOの世界に入ってくる気配が見えない

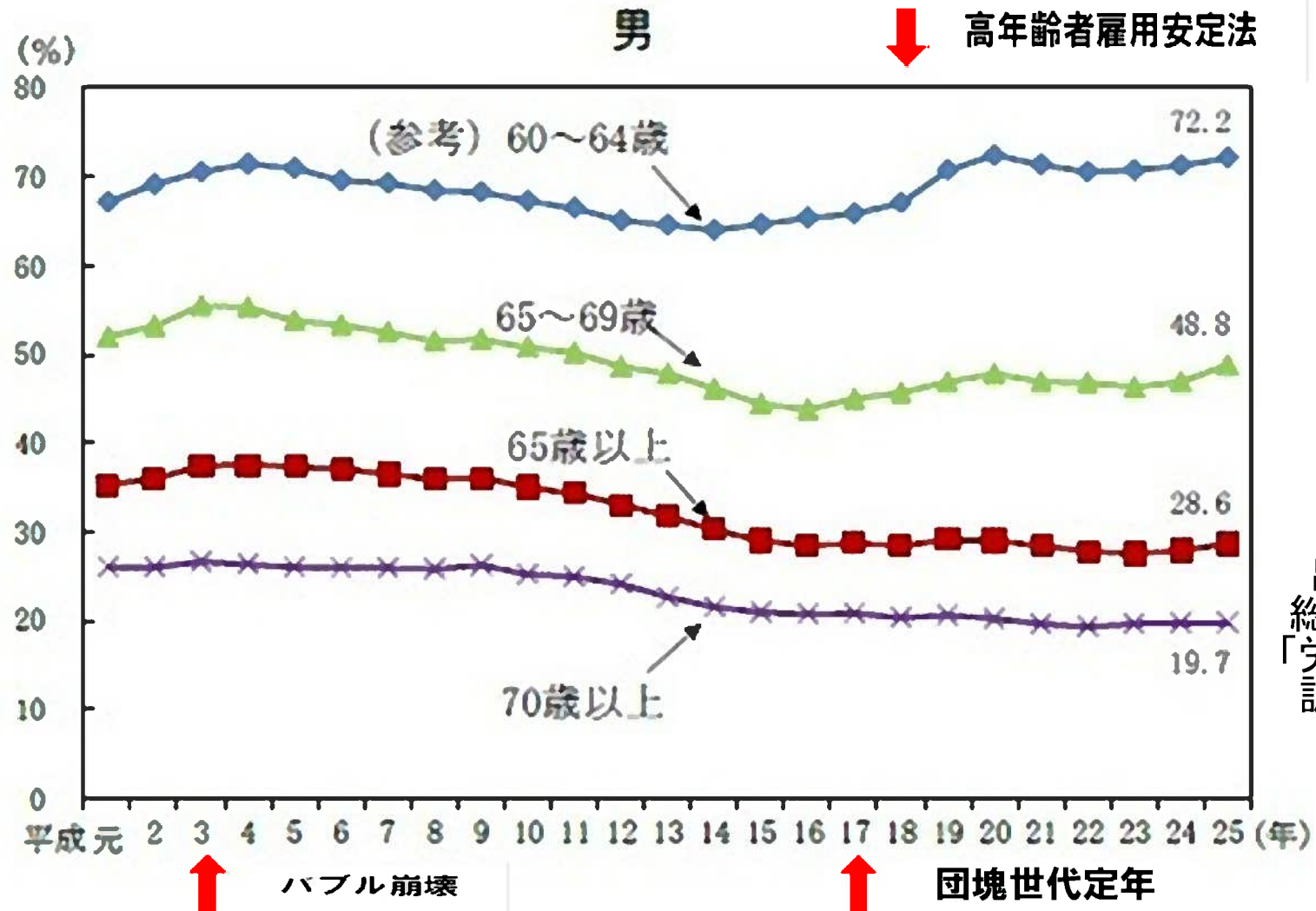
それは困る。

社会は、団塊の世代シニアの馬力に期待している。

**カネは儲からないが、生きがいに満ちた、
楽しい世界に気づいてほしい！**

高齢者就業率は上昇中

高齢者の就業率の推移(平成元年～25年)



出典
総務省
「労働力
調査」

これからの10年
あかるい兆しをふたつ

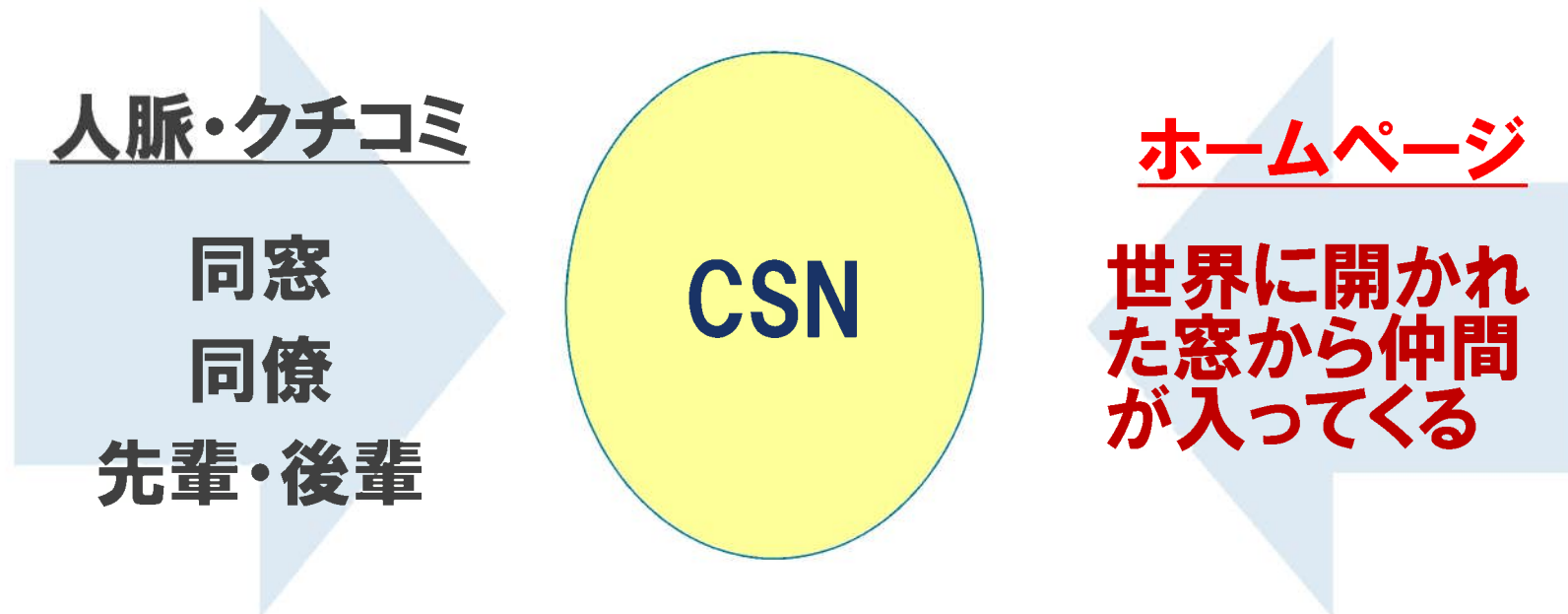
■ シニアは、フルタイム勤務はNG

非正規雇用を選んだ理由	35～54歳	65歳以上
正規の職員・従業員の仕事がないから	49.1%	11.3%
自分の都合のよい時間に働きたいから	12.1%	29.2%

出典：総務省「労働力調査」

これからの10年
あかるい兆しをふたつ

- 自らの理念に合うNPOを、インターネットで検索して参加するひとが増えている。



これからの10年
社会的課題解決に事業型NPOが必要とされる

担い手	社会的な課題 (環境、貧困、障害者、少子高齢化、女性、教育…)				
	大きすぎる	小さすぎる	ローカル	マイナー	価値観 多様化
行政	×	×	×	×	×
ボラン ティア	○	○	○	○	○
事業型 NPO	○	○	○	○	○

(参考: 谷本寛治「社会的企業」の台頭の背景とその可能性)

これからの10年
まだ、10年もある！と考えよう

■ 人生

・前半期 現役 ・後半期 リタイア

60歳代 年少組

70歳代 年中組

80歳代 年長組

- 社会貢献ができるこの仕事を、理念・価値観を共有する仲間とやっていける幸せを、あと10年もちつづけたいと思います。

感謝

- CSNの活動を10年間、事務局として支えてくれている辻田夫人佳以さん。
- 最後になりましたが、この場をお借りして感謝申し上げます。

ご清聴ありがとうございました